

2021年度 大学入学共通テスト の出題傾向と今後の動向

学校法人 河合塾 教育企画開発部 地歴・公民科

1 はじめに

大学入試センター試験の後継として、2021年度初めて、大学入学共通テスト（以下、共通テスト）が実施された。科目別の平均点（本試験 1/16(土)実施）は、地理B 60.06点（昨年度 66.35点）、世界史B 63.49点（昨年度 62.97点）、日本史B 64.26点（昨年度 65.45点）であった（表1）。志願者数は535,245人であり、昨年度より22,454人減少し、2018年度より減少し続けている。科目別受験者数（本試験）は、地理B 139,010人、世界史B 85,995人、日本史B 143,773人であった（図1）。

2 2021年度共通テスト*の出題傾向

地理Bは昨年度のセンター試験で出題されていた比較地誌が出題されなかったが、その他の問題は、地理Bのほぼ全分野から満遍なく出題された。基本的な知識をふまえて、統計表・統計地図・グラフ・地形図などの複数の図表を読み取る問題が多くなり、各問を解くのにセンター試験よりも時間を要した。センター試験に比べて資料の読解力と地理的な思考力が求められた。

世界史Bの出題内容やレベルは従来のセンター試験を踏襲しており、古代から第二次世界大戦後まで幅広く出題され、やや近現代史が多く、戦後史からの出題もみられた。グラフを読み取る問題を含む第2問以外は、すべての大問に資料の文章を読み取る問題が出題された。問題文に資料を引用しているほか、資料文そのものを選択させたり、時代順に並び替えさせたりするなど、さまざまな形式の出題がみられた。

日本史Bは大問の構成では、第1問・第2問・第6問で発表に備えた高校生の会話や学習発表が素材とされるなど、「どのように学ぶか」をふまえた場面設定がなされた。また、個々の設問では、従来のセンター試験に比べると、史料・図版・地図・統計など多様な資料を用いた出題が増加しており、教科書などで扱われていない初

見の資料を使って、そこから得られる情報と授業で学んだ知識を関連づける問題が多く出題された。一方で、従来のセンター試験と同様のレベル・内容の出題も多くみられ、全体としては受験生の知識の理解の質や思考力・判断力を幅広く問う配慮がなされた。

3 今後の共通テストの動向

◆現行課程における共通テスト

地理Bの共通テストは、問題文が長くなり、図表の読み取り問題が増えるなど、センター試験より解答に時間がかかる問題が増加した。いろいろな地形や気候区、農業地域、鉱産資源などの分布をしっかりと把握しておくこと、統計図表の読み取り問題では、統計の特徴とその背景を理解することが必要である。問題文や会話文などには教科書に太字で書いてある地理用語や地名が出るので、重要な用語を覚えて意味を理解しておくことも大切である。

世界史Bの共通テストでは、資料の読み取り問題が大幅に増えた。資料を正しく読み取るには、初見の資料でも「既知の知識」と資料から「読み取った情報」とを重ね合わせて判断しなければならない。教科書本文の文字情報だけではなく、資料・地図・図版、さらにはコラムにも目を通しておくことが大切である。また、歴史用語を「暗記する」のではなく、因果関係やそれぞれの時代のイメージを意識して「理解する」学習を心掛けてほしい。

日本史Bでは、共通テストで要求される学力は今後もセンター試験と大きくは変わらず、出来事の因果関係を正しく理解しているか、歴史用語の意味を正確に理解しているか、といったことが中心になるだろう。また、史料・図版・統計表などの読解力・分析力の養成は、高得点を取るためには不可欠である。

◆新課程における共通テスト

2021年3月に、大学入試センターから「平成30年告示高等学校学習指導要領に対応した令和7年度大学

* 1/16(土)実施分

入学共通テストからの出題教科・科目について」と、その参考資料として「地理総合」や「歴史総合」などのサンプル問題が公表された。

地理歴史・公民では各科目の必修科目と選択科目を組み合わせた5科目と、地理歴史・公民の必修修3科目を組み合わせた『地理総合、歴史総合、公共』の計6科目に再編される。

地理分野は『地理総合、地理探究』という出題科目となり、「地理総合」および「地理探究」の内容が出題範囲となる。「地理総合」のサンプル問題では、地域の課題とその解決策、そしてその成果などの因果について問うものがみられたが、新学習指導要領の目標に沿った問題に対応するためには、アクティブ・ラーニング型の授業を積極的に活用することが重要であり、知識を覚えるだけでなく、「なぜそうなるのか」という興味をもち、理解を深める姿勢も大切である。新学習指導要領には小・中・高等学校の一貫性の観点が述べられており、サンプル問題には中学校社会科地理的分野で学習した内容を活用できるものもみられた。構想、考察する力には小学校社会科、中学校社会科地理的分野において得た知識もおろそかにしてはならない。また、従来通り、図表の読み取りを中心とした問題がほとんどを占めることから、共通テストやセンター試験の過去問演習により、短時間で的確に読み取る力を養うことも重要である。

歴史分野は『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』の出題科目となり、「日本史探究」「世界史探究」それぞれが単独の出題科目となるのではなく、ともに必修科目「歴史総合」と組み合わせられた形となる。「歴

表1 地歴・公民の共通テスト・センター試験（本試験）平均点

	2020年度		2021年度(1/16実施)	
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
地理B	66.35	14.84	60.06	14.68
世界史B	62.97	22.46	63.49	21.54
日本史B	65.45	19.43	64.26	16.66
倫理、政治・経済	66.51	15.80	69.26	13.85

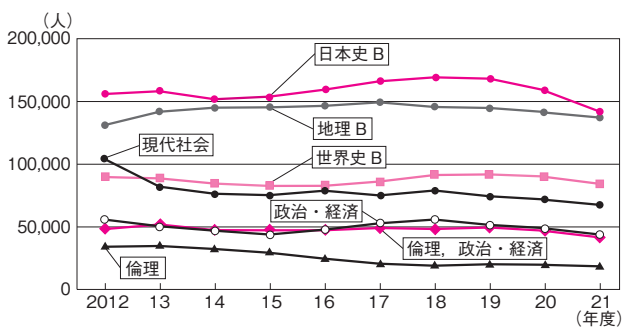


図1 共通テスト（本試験）受験者数の推移

史総合」のサンプル問題では、全問が史料・図表・グラフなど諸資料を利用した設問であり、単に歴史用語を問う設問や歴史用語の知識だけで解ける設問は少なく、思考力・判断力を問おうとする現行の共通テストの日本史・世界史の方向性を強めた内容になっている。

「歴史総合」は、日本史・世界史という枠を超えた新しい科目であることを意識した指導が求められるだろう。出題内容や新学習指導要領から判断して、現代的な諸課題を意識した指導・学習が必要である。その際、歴史のタテ軸だけでなく、地域や国を超えたヨコ軸の理解にも留意する必要があるだろう。また、史料・地図・図表・グラフなど統計資料を駆使した出題が予想される。諸資料に対する解釈・読解力の養成は不可欠であろう。加えて、学習の土台をつくるために中学校の社会科の内容をしっかりと修得させておきたい。現時点での学習対策としては、共通テストの日本史A・世界史A、試行調査の近現代部分の問題演習や、思考力・判断力の前提となる知識・技能に関わる学力の養成という点では、センター試験の日本史A・世界史Aの過去問演習が有用であろう。

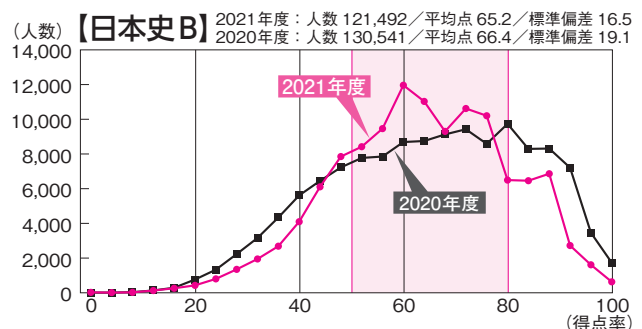
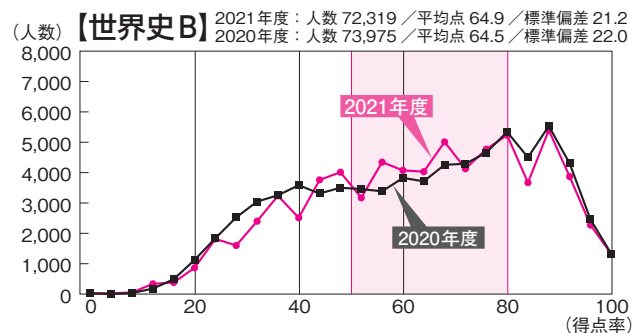
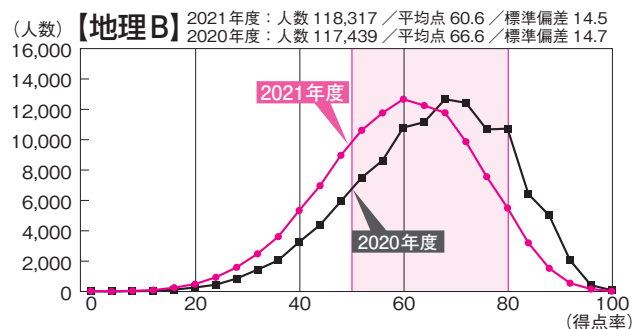


図2 共通テスト・センター試験の年度別得点分布（河合塾共通テスト・センターリサーチによる）